

令和3年度

試験名：

【 社会・国際学群 社会学類】

区 分	標準的な解答例又は出題意図
編入学試験 専門科目 政治学	<p>「官邸主導」について説明させることによって、過去四半世紀の日本の統治システムの変化に対する理解、およびそれを論理的に表現する能力を判定することを意図して出題した。(1)官邸主導が目指されることになった経緯として、かつての自民党政治の特徴とそれに対して高まった批判が論じられているか、(2)官邸主導が実際に進んだかについて、官邸主導の実現のために実施された制度改革と、その改革によって官邸(首相)と省庁官僚制との関係、官邸(首相)と与党政治家との関係に生じた変化を記述できているか、(3)上記(1)と(2)を結び付け、論理的な説明ができているか、を評価のポイントとした。なお、官邸主導の不徹底を指摘する議論もあるため、官邸主導の実現は前提とせず、官邸主導が一般に言われているほど進んでいないとする解答に対しても、その主張の根拠に説得力があれば高く評価した。</p>

令和3年度

試験名:学群編入学試験

英語

【社会国際学群 社会学類】

区 分	標準的な解答例又は出題意図
解答例	<p>問題Ⅰ (問1) しかしすぐに明らかになったのは、国民民主党の伊藤孝恵上院議員が、同じく女性議員であり無所属議員である寺田静から投票された、ということであった。</p>
解答例	<p>(問2) 日本政府の指導的立場に女性がいないという問題</p>
解答例	<p>(問3) 日本における女性のリーダー的役割の極端な低さは国会議員だけにとどまらず、2019年時点で企業や公務員の管理職に就く女性の割合は、わずか14.8%である。</p>
解答	<p>(問4) エ</p>
出題意図	<p>問題Ⅱ シチズンシップという概念から政治の諸性質の検討を試みる英語文章の読解能力を試す設問である。</p>